

令和8年2月18日

太田市議会議長 星野 一広 様

都市産業委員会委員長 高田 靖

都市産業委員会視察報告書

- 1 期 日 令和7年10月20日（月）から  
10月22日（水）までの3日間
- 2 視 察 地 岩手県盛岡市、青森県弘前市、北海道函館市
- 3 視察事項 (1) 岩手県盛岡市議会  
・Park-PFI制度を活用した公園整備事業（木伏緑地）  
について  
(2) 青森県弘前市議会  
・弘前ねふたまつりの運行体験地域交流プロジェクト  
について  
(3) 北海道函館市議会  
・まちのにぎわい創出について
- 4 派遣委員 7名  
高田 靖 委員長 若林 卓実 副委員長  
山水めぐみ 委員 八長 孝之 委員 高橋えみ 委員  
白石さと子 委員 尾内 謙一 委員
- 5 執 行 者 10名  
行政事業部 部 長 富島 公則  
花と緑の課 係長代理 廣田 友和 係長代理 原澤 潤一  
観光交流課 課 長 木部 久夫 係 長 餘目 崇  
都市政策部 部 長 田村 克弘  
都市計画課 参 事 石崎 達也  
道路整備課 課長補佐 嶋田 敏宏  
産業政策課 係 長 山口 香織 主 任 田部井 猛
- 6 随 行 者 議会総務課 係長代理 相山 智彦
- 7 視察概要 別添のとおり

## (1) 岩手県盛岡市議会 視察概要

### 盛岡市の概要 (令和7年12月1日現在)

- ・面積 886.47 k m<sup>2</sup> ・人口 275,521 人 ・世帯数 132,949 世帯
- ・市制施行 明治22年4月1日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度: 1,242 億円 8,000 万円  
令和6年度: 1,213 億円 3,000 万円
- ・議員定数 38 人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 600,000 円

### 視察事項

#### 「Park-PFI 制度を活用した公園整備事業 (木伏緑地) について」

##### ・目的

本視察は、本市の「八王子山公園」等の公共施設において、市財政の負担軽減と公園の質・利便性の向上を両立させる手法を検討することを目的とする。Park-PFI 制度を導入し、民間活力を最大限に活用することで賑わいを創出した盛岡市「木伏緑地」の先進事例を調査し、本市における効果的な公園整備・管理運営の在り方を探究する。

##### ・所感

本視察では、都市公園法改正に伴う Park-PFI 制度を導入し、未活用だった公園を賑わいの拠点へと再生させた盛岡市の木伏緑地を調査した。最大の成果は、民間の創意工夫と資金を導入することで、行政の財政負担を抑えながら質の高い公共サービスを実現している点にある。従来の公費頼みの整備に比べ、低額で整備が可能となるだけでなく、民間ならではの細やかな維持管理により施設全体が美しく保たれている点は特筆に値する。空間設計においては、店舗ゾーンやアウトドアキッチンなど用途に応じた多様な使い方が提示されており、コンテナを活用した斬新な建物デザインや地下駐輪場の有効活用など、既存資産を活かすアイデアが随所に見られた。

また、公園内への飲食店進出にあたって周辺店舗への影響を考慮するなど、緻密な計画立案がなされていることも確認できた。一方で、出店数が計画を下回っている現状や、時間帯による賑わいの差など、地元資本にこだわったがゆえのテナント誘致の難しさも浮き彫りとなった。賑わいを肌で感じるためには、運営時間やイベント展開を含めたソフト面の検証も必要である。

本市においても、現在進めているドッグラン整備等を端緒として、こうした民間活力の導入をさらに加速させるべきである。特に人通りの多いエリアにおいては、カフェ等の収益施設を核に人の流れを創出する余地は大きい。今回の視察で得た知見を活かし、民間のアイデアとノウハウを柔軟に取り入れることで、市民に親しまれ、かつ持続可能な公園整備のあり方を本市でも研究して参りたい。

## (2) 青森県弘前市議会 視察概要

### 弘前市の概要 (令和8年1月1日現在)

- ・面積 524.20 k m<sup>2</sup> ・人口 157,031 人 ・世帯数 70,845 世帯
- ・市制施行 明治22年4月1日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度：883億7,000万円  
令和6年度：827億8,000万円
- ・議員定数 28人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 600,000円

### 視察事項

「弘前ねぷたまつりの運行体験地域交流プロジェクトについて」

#### ・目的

本視察は、本市の「尾島ねぷたまつり」のさらなる発展を目指し、友好都市である弘前市の先進事例を調査するものである。特に、運行体験や地域交流を軸とした「アントレねぷたコース」の事業内容や実績、運営上の課題を精査する。現地の取組から得た知見を、本市のまつり運営や地域活性化施策へ反映させることを目的とする。

#### ・所感

本視察では、日本を代表する伝統行事である「弘前ねぷたまつり」を軸に、関係人口の創出から将来的な移住へと繋げる弘前市の戦略的な取り組みを調査した。特筆すべきは、祭りを単なる「観賞」の対象に留めず、運行体験や準備・片付けの段階から外部人材を受け入れる仕組みである。参加者の特技や関心に合わせた多様なプログラムを提供することで、一人ひとりが地域に貢献している実感を持てる工夫がなされていた。単発のイベントで終わらせることなく、継続的な交流を深めるフォローアッ

プ体制を整備している点は、関係人口を増やすための極めて画期的な手法であると評価できる。

また、津軽藩ねふた村の視察を通して、歴史の深さや毎年新作を製作する熱意、そして資材を再利用する知恵など、伝統文化を継承しつつ新たな魅力を発信する姿勢に多くの示唆を受けた。人口減少対策としての側面もあり、地域の担い手不足を逆手に取って、外部との交流を深める機会に変えている点は非常に意義深い。

本市においても「尾島ねふた」という独自の伝統文化を有している。弘前市ほどの規模や歴史の差はあっても、その精神や手法を本市の実情に合わせて応用していくべきである。「太田といえばこれ」と言える魅力を前面に押し出し、外部の人が祭りの舞台裏から関わられるインセンティブを設計することで、新たな賑わいの創出や関係人口の拡大に繋げることが期待できる。今回の視察で得た、伝統文化を核とした地域コミュニティの活性化と、外部人材を巻き込む仕組みづくりは、本市の観光政策などにおいて大いに活用できるものである。今後は、本市の伝統行事の継承と魅力発信に向け、これらの手法を研究して参りたい。

### (3) 北海道函館市議会 視察概要

#### 函館市の概要 (令和7年11月30日現在)

- ・面積 677.87 k m<sup>2</sup> ・人口 233,086 人 ・世帯数 137,698 世帯
- ・市制施行 大正11年8月1日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度：1,524億9,000万円  
令和6年度：1,432億7,000万円
- ・議員定数 27人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの年額) 540,000円

#### 視察事項

「まちなかにぎわい創出について」

##### ・目的

本視察は、太田駅周辺への大学進出を契機とした、まちなかの賑わい創出および公共空間の整備・活用を目的とする。先進事例である函館市の「函館駅前・大門地区賑わい創出事業」における多目的広場の活用や、民間活力を引き出す「函館市まちなか店舗機能向上改修費補助金」の成果を調査する。これらハード・ソフト両面の施策を深く学び、本市

の持続可能なまちづくりや地域経済の活性化に資する知見を得るものである。

・所感

視察では、国の補助金を活用した社会実験を端緒とし、官民連携でオープンテラスや店舗改修を進める函館市の「にぎわい創出」施策を調査した。大きな特徴は、道路空間をオープンテラス等として活用するハード整備と、既存店舗の魅力を高める「まちなか店舗機能向上改修費補助金」等のソフト施策をセットで展開している点にある。市役所から函館駅まで続く開放的な景観や、歩いて楽しめる「ぐるっと駅前大門めぐり」などの仕掛けは、滞在時間の延長と消費喚起に一定の効果を上げている。

特に、行政主導の実験を経て民間主体の取り組みへと移行させたプロセスは、持続可能なまちづくりのモデルとして高く評価できる。一方で、昼間の集客の難しさや、実施箇所の点在による統一感の欠如といった課題も確認された。また、クルーズ船客などの観光客が求める需要と、提供するサービス（生鮮品の持ち帰り制限等）とのミスマッチを解消する視点など、経済効果を最大化するための工夫も示唆された。

本市においては、桐生大学の進出を控えた駅周辺や南一番街の活性化が急務である。視察同行した執行部職員とも実感を共有した通り、道路空間を利用したテラス席の設置や、店舗機能向上への支援は、本市の街並みに統一感を与え、人を呼び込む強力な手段となり得る。昼夜を通じた賑わいの創出に向け、ハード面の道路整備だけでなく、個々の店舗の魅力向上を支える公的な施策をセットで検討すべきである。函館市のように「歩いて楽しめる仕掛け」を戦略的に配置し、本市の特性に合わせた回遊性の向上を図ることで、駅周辺のポテンシャルを最大限に引き出す施策の展開が不可欠なものであると感じた。